

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立片倉高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員4名 計5名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務部主任・生徒部主任)、総務部主任、進路指導部主任、保健部主任 造形美術コース主任 計9名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 青木 真理（多摩美術大学教務課） | 黒川 弘章（東京工科大学学生部長） |
| 出張 吉訓（東京女子体育大学教授） | 坂内 聡（八王子市立中山中学校長） |
| 井村 良英（育て上げネット執行役員） | 井出 勲（八王子市社会福祉協議会市民力支援課課長） |
| 森 洋人（片倉台自治会長） | 伊藤 大介（保護者の会代表） |
- 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
- 第1回 令和7年7月11日（金）内部委員9名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画、昨年度学校経営報告と本年度学校経営計画の説明、6月末までの各分掌の活動報告、意見交換
- 第2回 令和7年12月11日（木）内部委員8名、協議委員5名
11月末までの各分掌の活動報告、学校評価アンケートの項目・方法の検討、学校経営・運営に関わる質疑応答、意見交換
- 第3回 令和8年3月13日（金）内部委員6名、協議委員6名
本校教育活動の報告 学校評価アンケート結果報告及び質疑応答
学校経営・運営に係る質疑応答・意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
- 第1回 令和7年12月11日（木）内部委員3名、協議委員4名
今年度学校評価の観点・項目の検討・実施時期・方法・対象範囲の検討
- 第2回 令和8年3月13日（金）内部委員3名、協議委員4名
学校評価アンケート結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の取組姿勢」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
- | | | | |
|------------|---------|---------|--------------|
| ・12月 全校生徒 | 対象：932人 | 回収：854人 | 回収率：92% |
| ・12月 保護者全員 | 対象：932人 | 回収：121人 | 回収率：13% |
| ・12月 地域・住民 | 対象：24人 | 回収：24人 | 回収率：35%→100% |
| ・12月 教職員 | 対象：55人 | 回収：45人 | 回収率：82% |

(3) 評価項目と選択肢

生徒、保護者、教員と学校運営連絡協議会委員へは、「学校生活への満足感」「学校の特色理解」「教員の協働」「授業の工夫（わかりやすい授業）」「授業内容や進度」「進路指導」「教育課程（多様な選択科目）」

「生活指導」「健康指導」「防災指導」「ライフワークバランスの推進」の項目で実施した。

(4) 評価結果の概要

これまでも好意的回答は多かったが、今年度はさらに多くの項目で好意的回答の割合が上昇した。保護者の回答では、進路指導、授業内容、授業進度に関する評価が昨年度より上昇した。「学校生活の満足度」は、生徒・保護者ともに90%で、昨年度とほぼ同様である。学習指導では、生徒による「分かりやすい授業の工夫」への好意的回答が9割を超え、昨年度より上昇した。一方で、保護者アンケートの回収率の低さは課題である。

(5) 評価結果の分析・考察

「生徒による授業評価」では、すべての教科で好意的回答が8割を超えた。教員は9割以上が、わかりやすい授業に向けた工夫をおこなっており、その成果が結果に表れていると考えられる。今後も授業力向上の取組を継続する。

生徒の家庭学習の状況を見ると、課題には取り組んでいるものの、自主的な予習・復習に取り組む姿勢には、昨年度と同様に課題が見られる。今後は、スタディサプリ等を活用しながら、日常的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を図る必要がある。

また、教員、特に保護者からの回収率が低かったことは反省点である。早急に回収方法を検討する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

生徒の授業についてのアンケート結果から、今後の授業改善に生かすべき点を把握することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

アンケートの回収率増加に向けて検討する必要がある。日常生活に戻る中で、学校行事や生活習慣等について、今の生徒の実態に合った計画を立てる必要がある。生徒の成長のためには学校の力だけでなく、地域社会と連携し社会福祉団体等の協力を得ながら、問題解決を図っていく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

保護者への丁寧な情報発信に努め、学校の教育方針について理解を得る。※保護者の会解散で強化不可
学校行事や部活動の充実を通して、生徒の主体的な活動を促す。※満足度を向上のためにやるものではない

(2) 学習指導

ICTを活用した授業を強化するとともに、不測の事態に備え、オンライン学習がいつでも実施できるようにする。

全教員が相互授業参観、指導教諭の模範授業、オンライン授業参観等を通して授業改善に取り組み、授業力向上を図る。

海外学校間交流推進校として、英検の受検に組織的に取り組む。

スタディサプリ等を活用して日常の学習習慣を推進し、基礎学力の定着を図る。

図書館の活用を通して、生徒が読書活動に触れる機会の充実を図る。

(3) 生活指導

基本的な生活習慣を身につけるため、教職員全体が共通理解のもと、同じ基準で指導していく。SNS

の適切な利用について指導し、いじめ等のトラブルや犯罪被害の防止を図る。あわせて、盗難防止についても指導を行う。

(4) 進路指導

3年間を見通した進路指導のもと、早期から進路意識の醸成を図るとともに、面談やガイダンス等を通して一人一人の希望進路の実現を支援する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

はい	どちらかといえば、はい	普通	どちらかといえば、いいえ	いいえ	分からない	無回答
0	0	2	0	0	1	5

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 今年度は、職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績はなかった。

【成果】 その一方で、学校運営連絡協議会において、学校運営や教育活動に関する意見交換を行い、学校評価や改善の方向性について外部委員の意見を得ることができた。

8 その他

保護者のアンケート回収率の向上に向けて、フォームの活用や回答期間の設定を工夫するとともに、保護者会や学校からの通知を通して周知を図り、回答しやすい方法について改善する必要がある。